

「出雲市地域公共交通計画」の策定状況について

1. これまでの経過

出雲市地域公共交通活性化協議会では、少子高齢化社会における地域活力の維持向上のため、持続可能な公共交通網の構築を目指し、令和4年度に『出雲市地域公共交通計画』を策定することとしています。

令和3年度においては、計画策定準備として以下の調査事業を実施しました。

＜令和3年度＞

調査事業	内容
地域の現況調査	既存の資料等をもとに、地域の現状と公共交通の概況を把握し整理。
公共交通利用実態調査	市内の公共交通の利用実態を調査・分析するとともに、運行や収支の状況を整理。
関係機関へのヒアリング調査	公共交通利用者の移動特性やニーズ、並びに公共交通に関する問題点や課題を把握するため、庁内関係各課や交通事業者等を対象としたヒアリング調査を実施。
市民アンケート調査	市民の移動実態や公共交通のニーズ等を把握するため、アンケート調査を実施。 ＜対象＞15歳以上の市民 3,500人（回答率：43.5%）
出雲市地域公共交通活性化協議会の開催	実施した調査内容・方法、結果やワーキング部会を踏まえて取りまとめた問題点等に対して意見交換（計3回開催）。
ワーキング部会の開催	実施する調査内容・方法、結果等に対する意見交換（計2回開催）。

2. 抽出された主な問題点

(1) 市民意識と公共交通利用

- 市民満足度が極めて低い「公共交通」と、利用者離れの悪循環
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による公共交通利用者の減少
- 利用が少なく非効率な路線の存在
- 役割が重複する路線の存在

- (2) 居住と目的地
 - 地域によって異なる人口増減への対応
 - 拡大する市街地への対応不足
- (3) 高齢者等の生活
 - 地域によってルールや仕組みの異なる移動支援策
 - 公共交通を利用しにくい地域の存在
- (4) 通学
 - 高校生の移動手段の不足
 - スクールバスと路線バス運行区間の重複
- (5) 観光
 - 分散する観光資源への移動手段の不足
 - 出雲大社周辺での移動手段の不足
 - 出雲縁結び空港からの移動手段の不足
- (6) 公共交通の利用環境
 - 交通結節点や主要な鉄道駅・バス停の利用環境
 - 一見さんには使いづらい公共交通
- (7) 関係者連携
 - 事業者間の連携が必要
 - 庁内部署間の棲み分けと連携が必要
 - 隣接自治体との連携が必要

3. 今後のスケジュール（案）

<令和4年度>

	会議等	内容
4月28日 (実施済)	第1回地域公共交通活性化協議会	令和4年度事業計画・予算の決定、事業者選定
5月～ 9月	ワーキング部会（随時開催）	基本方針、実施事業、目標及び評価方法の検討
7月	第2回地域公共交通活性化協議会	基本方針の検討
9月	第3回地域公共交通活性化協議会	地域公共交通計画素案作成
11月	第4回地域公共交通活性化協議会	地域公共交通計画案作成
12月	パブリックコメント実施	—
1月	第5回地域公共交通活性化協議会	地域公共交通計画承認
3月	3月議会	地域公共交通計画説明

出雲市地域公共交通活性化協議会委員(名簿)

区分	所属名	役職	氏名	
住民又は利用者 (出雲地域代表)	出雲地域自治協会連絡協議会	会長	板倉 啓治	
住民又は利用者 (平田地域代表)	平田生活バス利用促進協議会	会長	梶谷 善信	
住民又は利用者 (佐田地域代表)	佐田地域過疎地交通対策 検討委員会	会長	糸賀 元次	
住民又は利用者 (多伎地域代表)	多伎地域交通運行協議会	会長	岡田 耕一	
住民又は利用者 (湖陵地域代表)	湖陵町区会連合会	副会長	森山 健治	
住民又は利用者 (大社地域代表)	杵築地区社会福祉協議会	会長	春木 薫	
住民又は利用者 (斐川地域代表)	斐川地域交通運行協議会	会長	高橋 義孝	副会長
公共交通事業者等 (一般旅客自動車運送事業者が 組織する団体)	一般社団法人 島根県旅客自動車協会	専務理事	秦 日出海	
公共交通事業者等 (鉄道事業者)	西日本旅客鉄道株式会社 米子支社	出雲市駅長	島 充	
公共交通事業者等 (鉄道事業者)	一畑電車株式会社 総務部	次長	野津 昌巳	
公共交通事業者等 (一般旅客自動車運送事業者の事業用 自動車の運転手が組織する団体)	島根県交通運輸産業 労働組合協議会	事務局長	丸山 武	
観光事業者	一般社団法人 出雲観光協会	事務局長	稲根 克也	監事
出雲市議会		議長	萬代 輝正	
出雲市議会	総合交通政策特別委員会	委員長	板垣 成二	
行政機関 (国土交通省)	国土交通省 中国運輸局島根運輸支局	首席運輸 企画専門官	久保 博嗣	
行政機関 (島根県)	島根県 地域振興部交通対策課	課長	土江 裕之	監事
行政機関 (出雲市)	出雲市総合政策部	部長	藤原 英博	会長

公共交通に関するアンケート調査結果
【抜粋版】

目 次

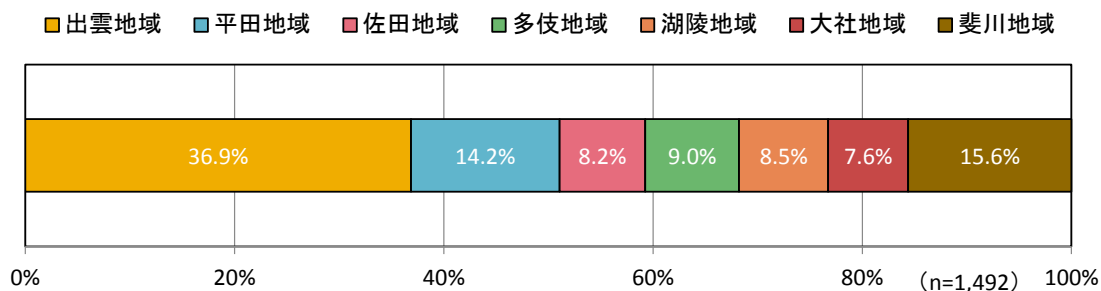
(1) 調査の概要	1
(2) 回答者の属性	1
(3) 普段の外出について	2
(4) 出雲市内の鉄道・バスの利用状況について	12
(5) 出雲市内のバスの満足度や改善点について	15
(6) 日常生活における移動手段に関する将来の不安などについて	16
(7) 出雲市内の公共交通の維持・確保について	17

(1) 調査の概要

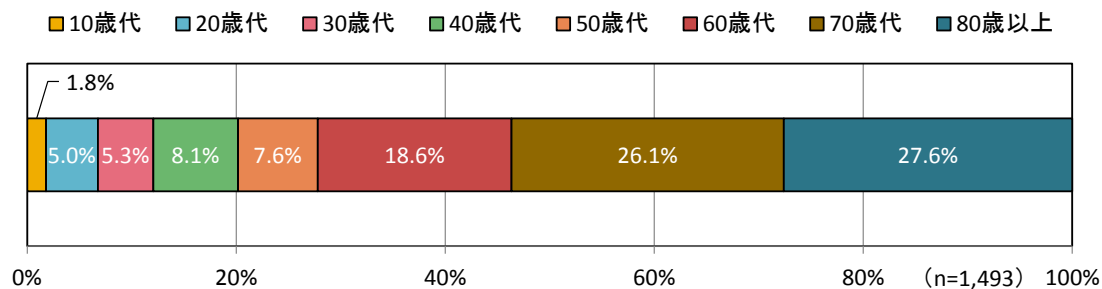
目的	<ul style="list-style-type: none"> 市民の通院、買い物、通勤等の移動実態の把握 公共交通の利用頻度とニーズの把握 公共交通の満足度と改善点の把握
対象	<p>市内に居住する 15 歳以上の住民から抽出した 3,500 人</p> <p>※各地域から最低 100 票の回答が得られるよう、人口の少ない地域へ多く配布する。また、65 歳未満と 65 歳以上の比率を、1 : 1.1 とする。</p>
調査方法	郵送配付、郵送回収（専用の Web 回答フォームからの回答も可とする）
回収状況	<p>回収数 1,524（うち 1,498 を集計）</p> <p>回収率 43.5%</p>

(2) 回答者の属性

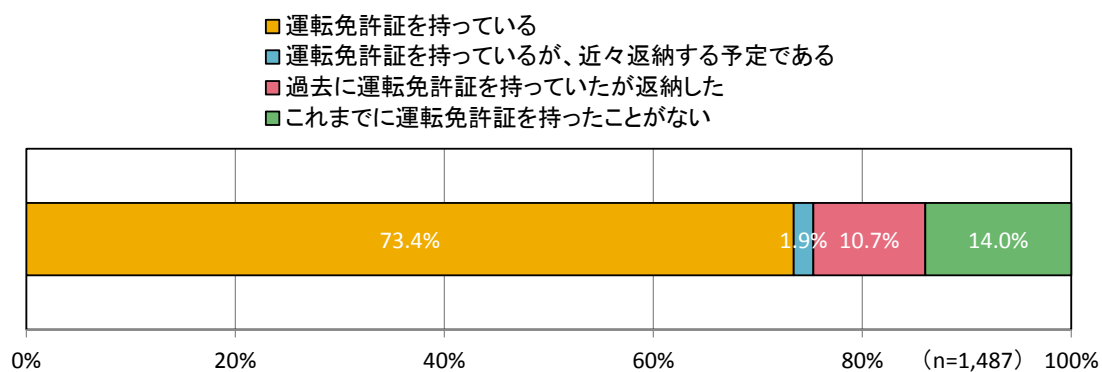
① 居住地



② 年齢



③ 運転免許証の保有状況

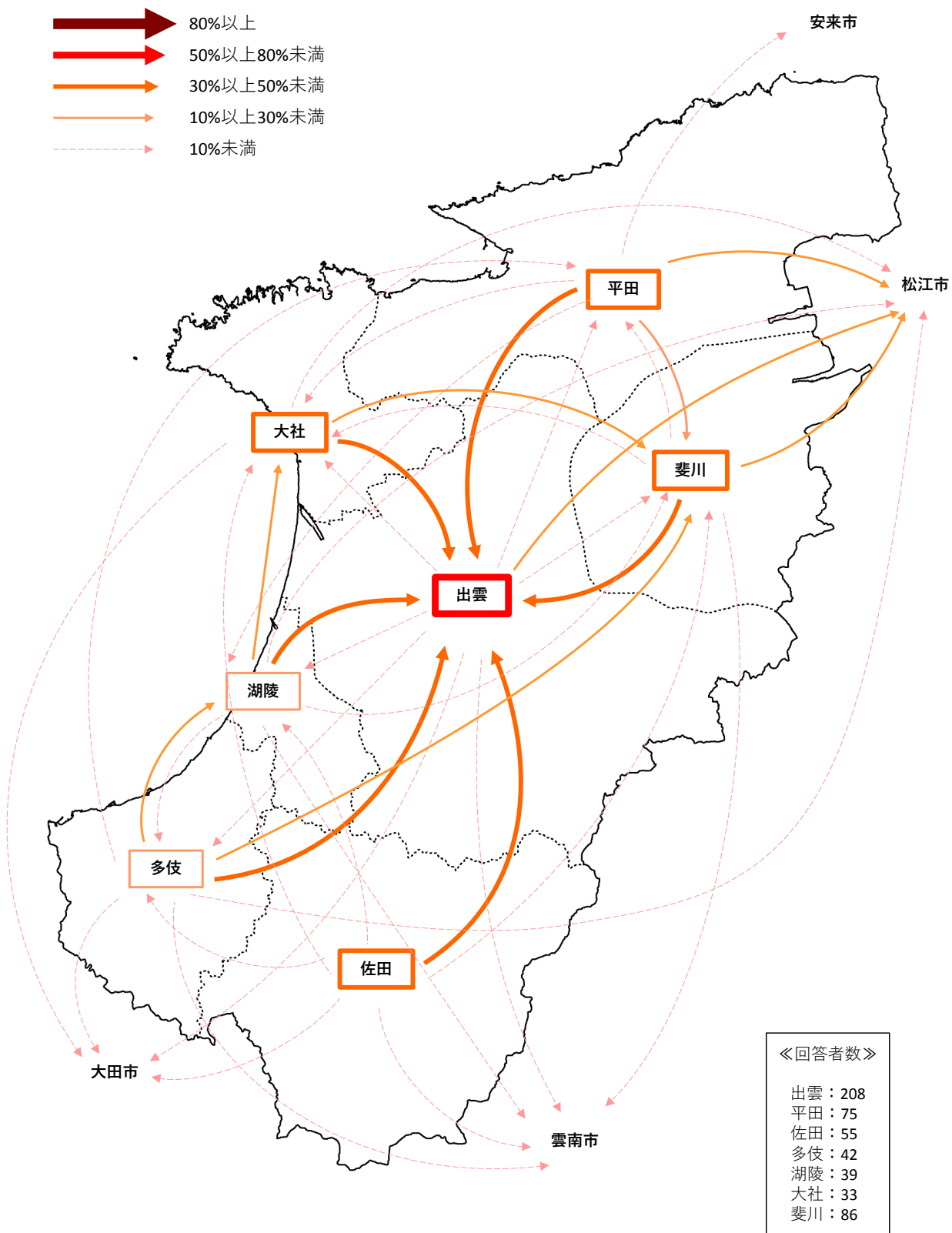


(3) 普段の外出について

① 通勤・通学について

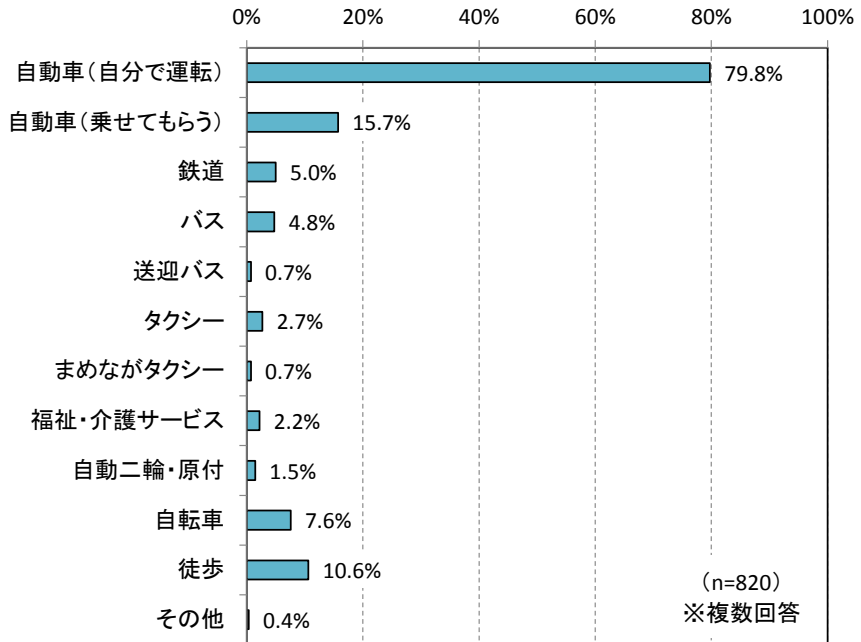
i. 通勤・通学先の所在地

- 自地域内または出雲地域へ通勤・通学する人の割合が比較的高いものの、移動ニーズが分散している状態です。



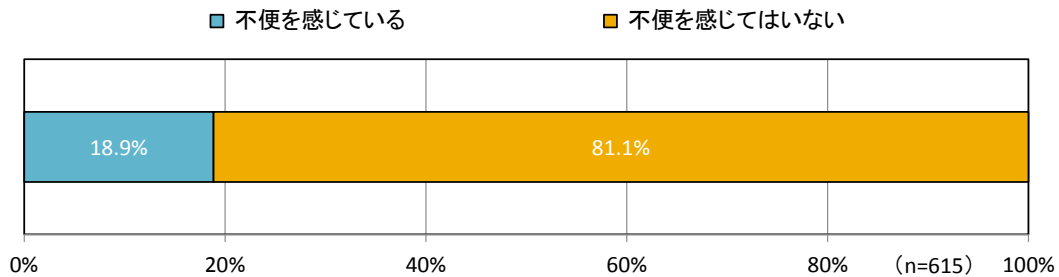
ii. 通勤・通学の移動手段

- 自動車を自分で運転して通勤・通学する人が 79.8%を占めています。
- 鉄道やバス等の公共交通を利用して通勤・通学する人は、それぞれ 5%程度にとどまっています。



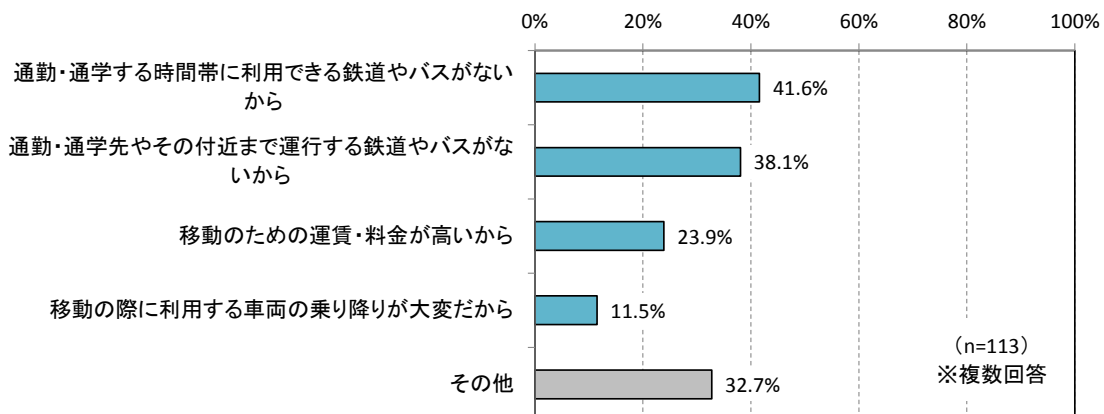
iii. あなたは、通勤・通学に不便を感じていますか

- 通勤・通学に不便を感じている人は 18.9%に留まっています。



iv. 不便を感じている理由 (iii「不便を感じている」選択者のみ回答)

- 通勤・通学時間帯に利用できる鉄道やバスがないことを指摘する人の割合が最も高くなっています。

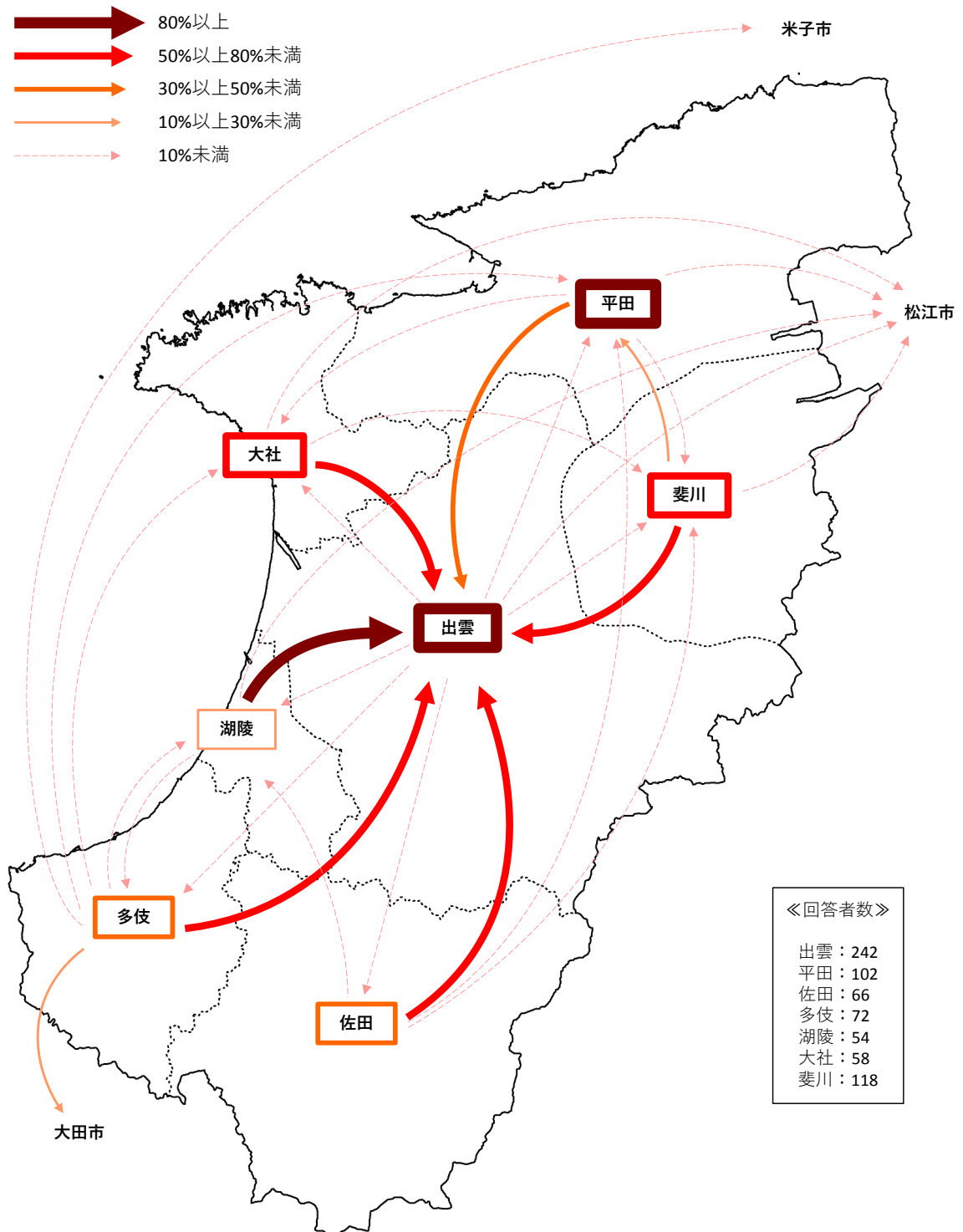


② 定期的な通院について

i. 通院先の所在地

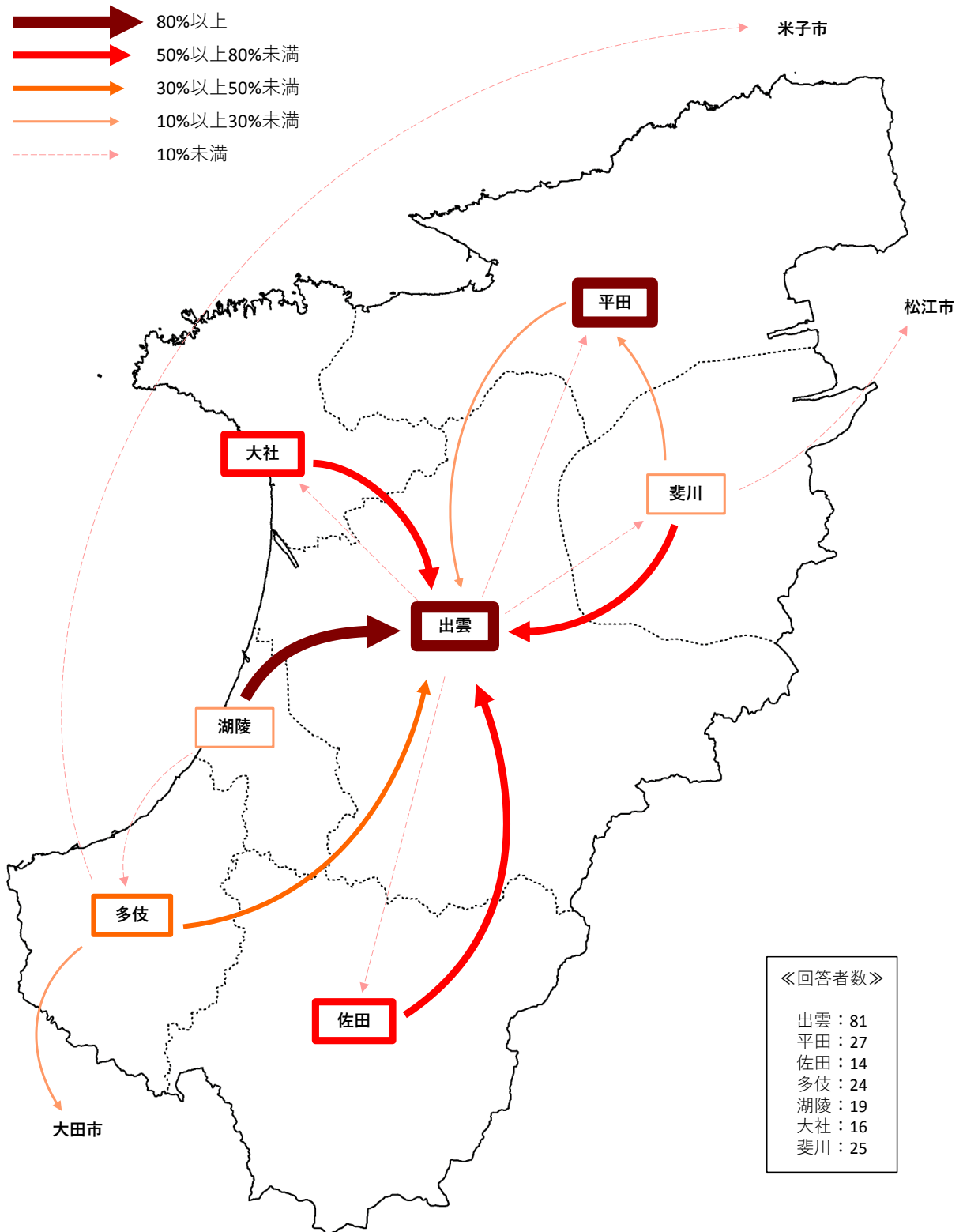
【全回答者】

- 各地域から出雲地域へ向けて、一定の移動ニーズがあります。
- 出雲・平田・大社・斐川地域は自地域内で通院する人が 50%を超えています。
- 佐田・多伎・湖陵地域では自地域内で通院する人の割合が比較的低く、出雲地域への通院が主となっています。



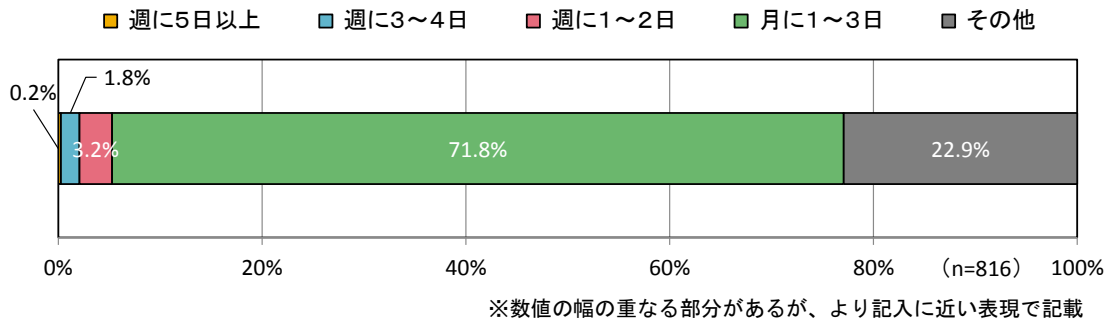
【運転免許証非保有者】

- 全回答者と比較すると、斐川地域内で通院する人の割合が低くなっています。
- また、佐田地域は自地域内で通院する人の割合が高い状況です。



ii. 通院の頻度

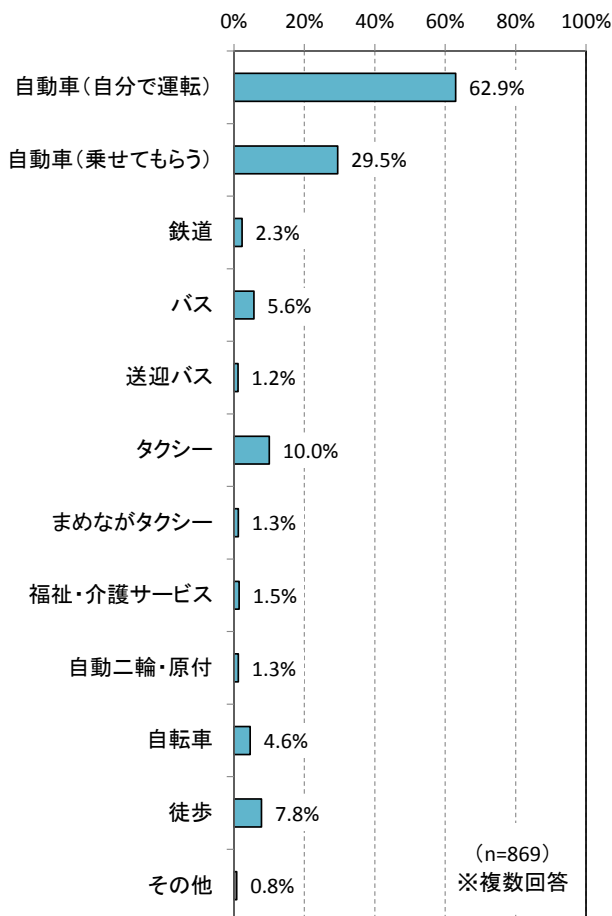
- 月に1～3日通院する人の割合が特に高く、71.8%を占めています。



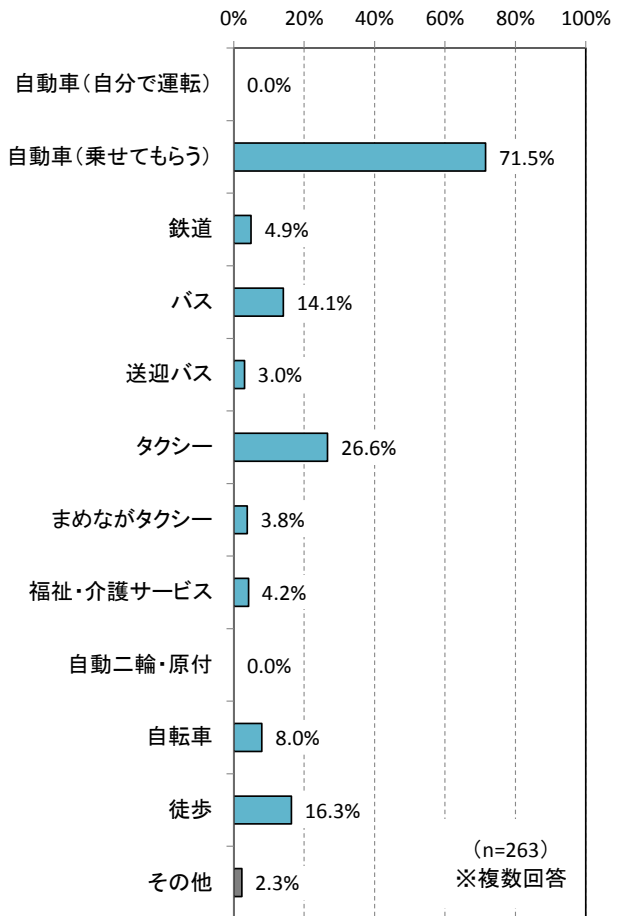
iii. 通院の移動手段

- 全回答者のうち62.9%が自分で自家用車を運転して通院しており、鉄道やバス等を利用して通院する人は少ない状況です。
- 運転免許証非保有者で見ると、自動車に乗せてもらって通院すると回答した人が71.5%を占めており、次いで割合が高いのがタクシーとなっています。

【全回答者】



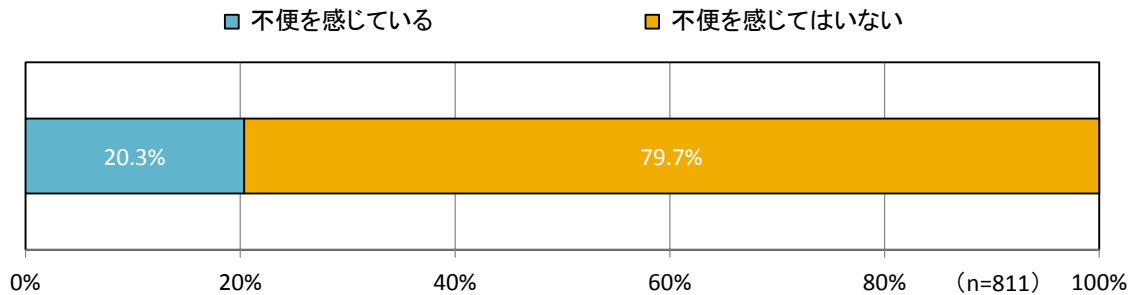
【運転免許証非保有者】



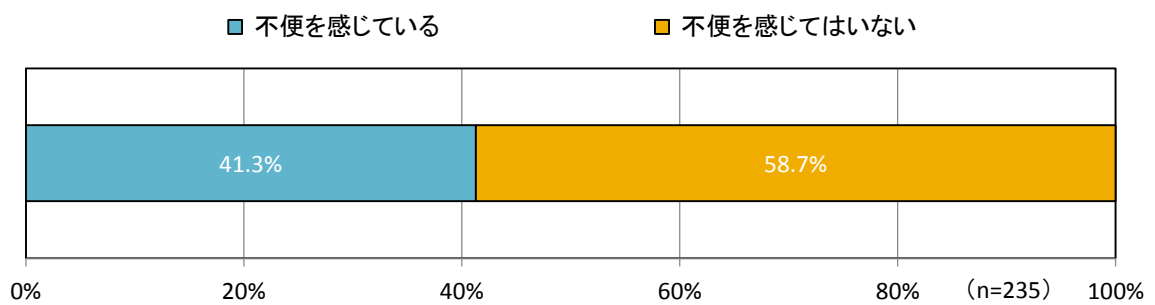
iv. あなたは、通院に不便を感じていますか。

- 全回答者のうち不便を感じているのは20.3%ですが、運転免許証非保有者ではその割合が21ポイント高く、41.3%を占めています。

【全回答者】



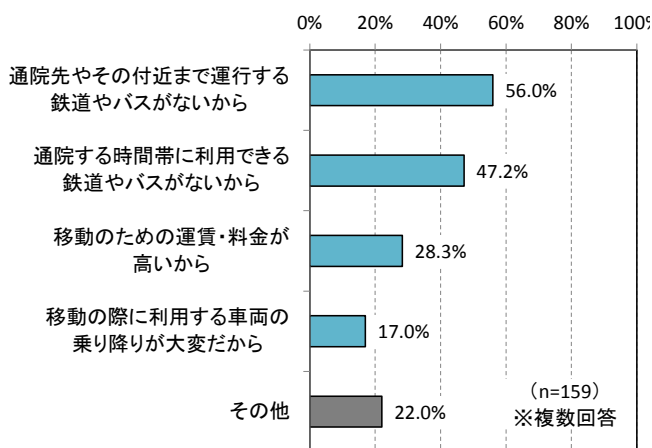
【運転免許証非保有者】



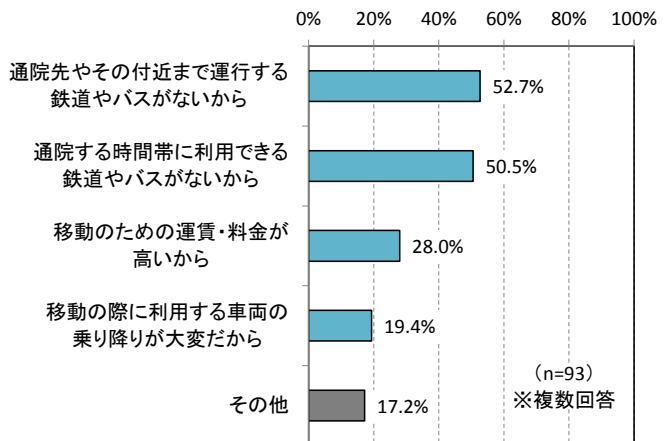
v. 不便を感じている理由をお答えください。(iv「不便を感じている」選択者のみ回答)

- 通院先・時間といった自身の移動ニーズと公共交通の運行が合っていないことを指摘する人の割合が高く、運転免許証非保有者も同様の傾向を示しています。
- その他の理由として、身体的な理由等により一人で通院できないことなどが挙げられています。

【全回答者】



【運転免許証非保有者】

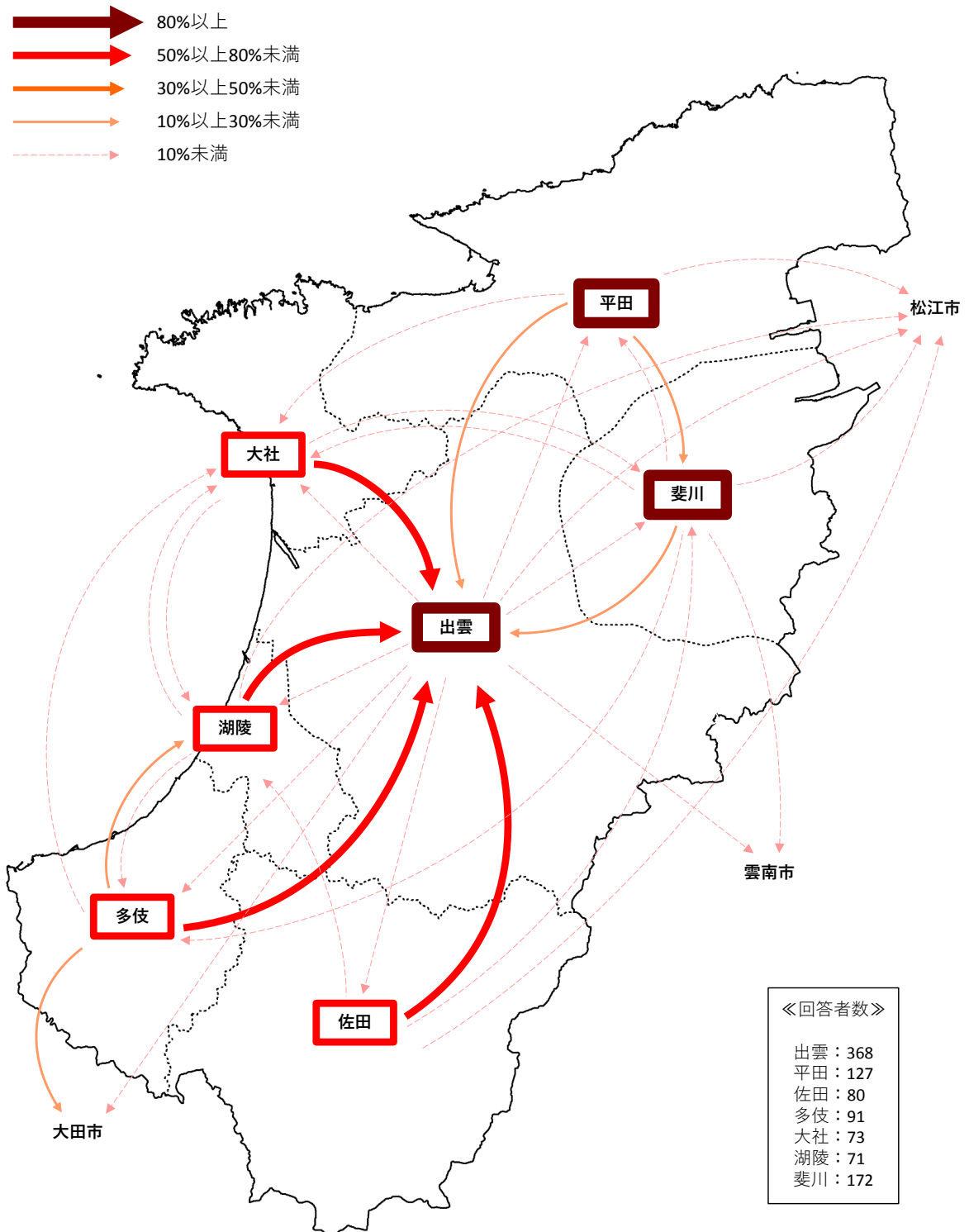


③ 食料品や日用品の買物、その他の定期的な外出（通いの場、習い事、趣味等）について

i. 主な外出先の所在地

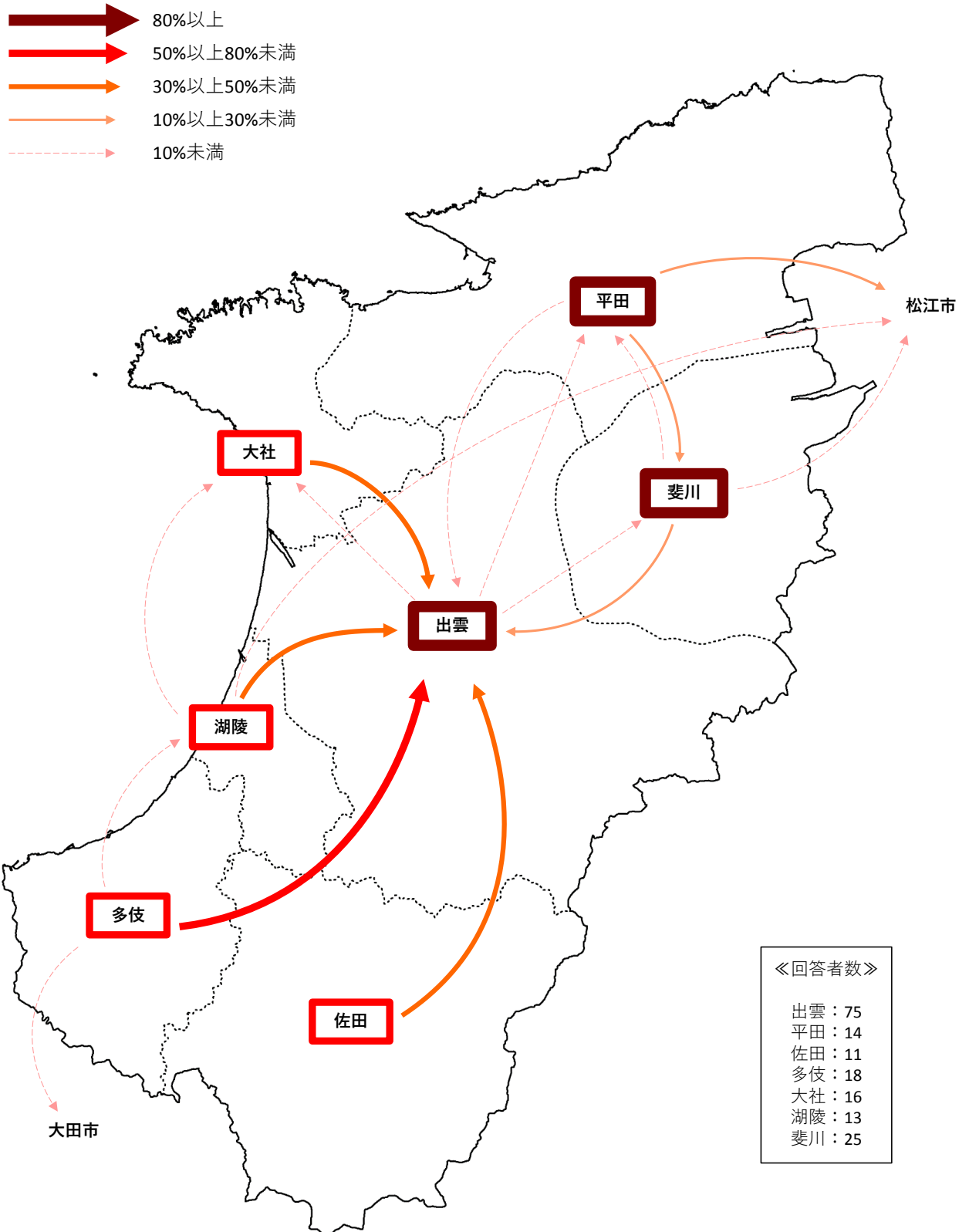
【全回答者】

- 出雲・平田・斐川地域は自地域内で買物等をする人が80%を超えており、他の地域へ移動する人はいずれも30%未満に留まっています。
- 佐田・多伎・湖陵・大社地域では出雲地域へ移動する人の割合も高くなっています。



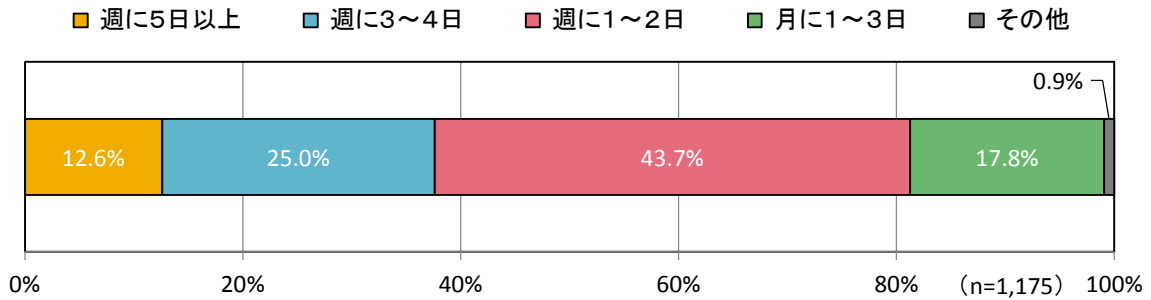
【運転免許証非保有者】

- 全回答者と比較すると、佐田・湖陵・大社地域から出雲地域へ移動する人の割合が低い状況です。



ii. 外出の頻度

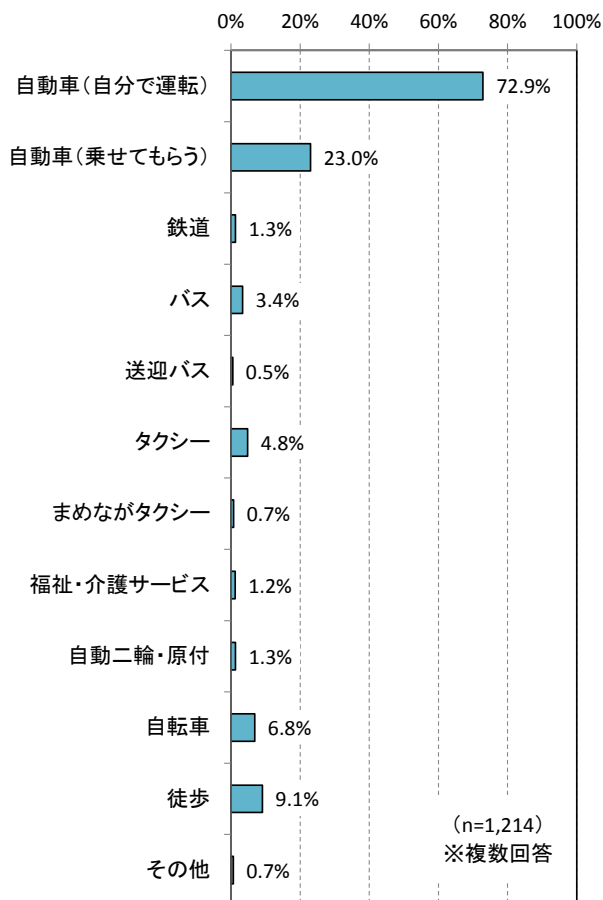
- 買物等の外出を週に1~2日行う人の割合が最も高く、43.7%を占めています。
- 次いで、週に3~4日外出する人の割合が高くなっています。



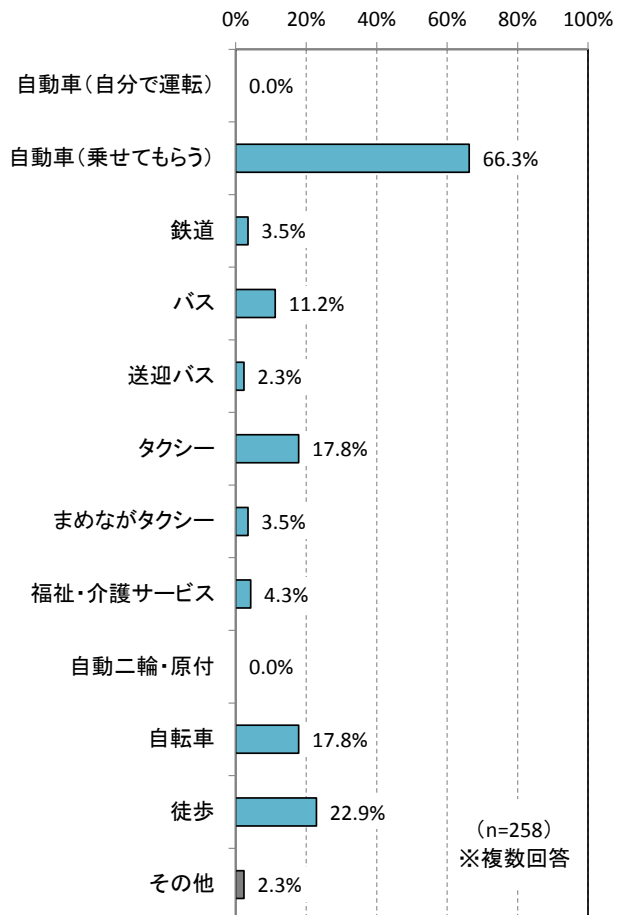
iii. 移動手段

- 全回答者のうち72.9%が自分で自家用車を運転して通院しており、鉄道やバス等を利用して通院する人は少ない状況です。
- 運転免許証非保有者で見ると、自動車に乗せてもらって通院すると回答した人が66.3%を占めており、次いで割合が高いのが徒歩となっています。

【全回答者】



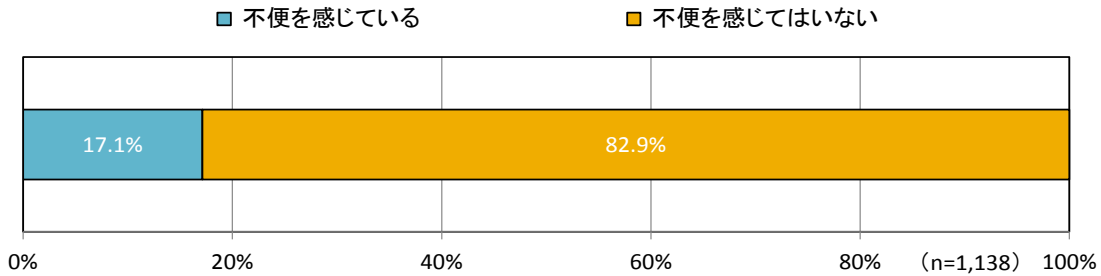
【運転免許証非保有者】



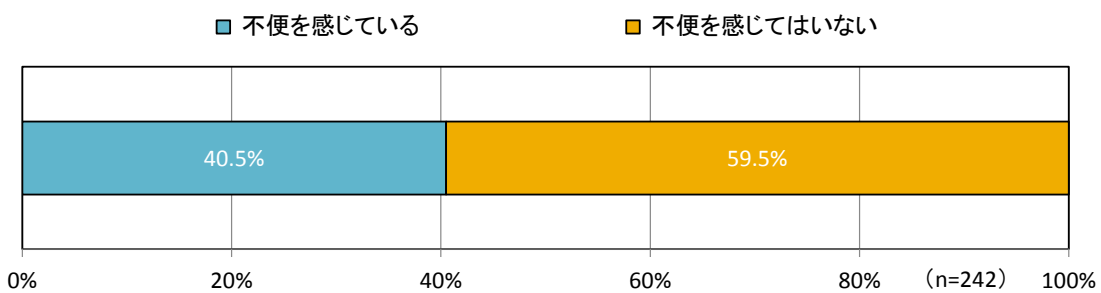
iv. あなたは、食料品や日用品の買い物、その他定期的な外出に不便を感じていますか。

- 全回答者のうち不便を感じているのは17.1%ですが、運転免許証非保有者ではその割合が23.4ポイント高く、40.5%を占めています。

【全回答者】



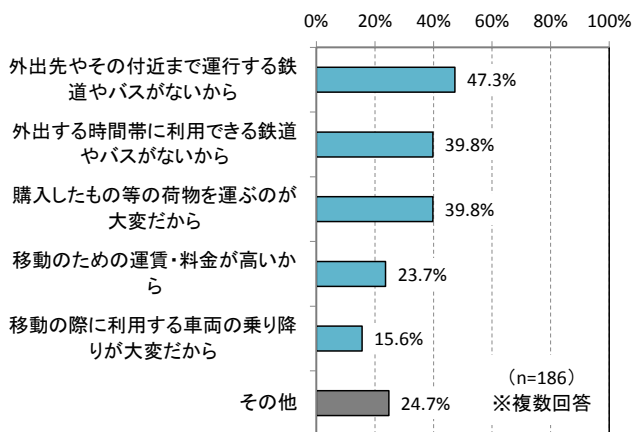
【運転免許証非保有者】



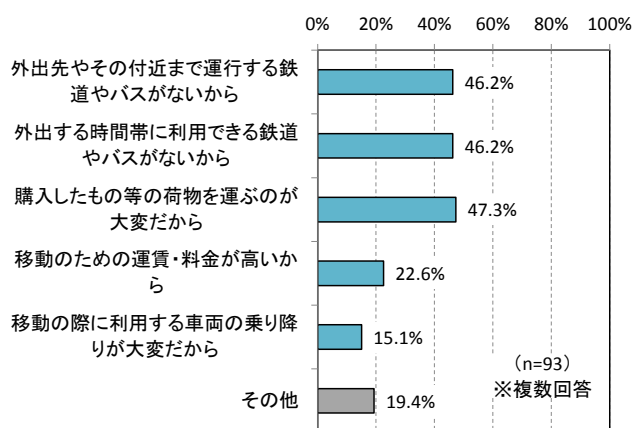
v. 不便を感じている理由をお答えください。(iv「不便を感じている」選択者のみ回答)

- 全回答者で見ると、自身の移動ニーズと公共交通の運行が合っていないことを指摘する人の割合が高くなっています。
- 運転免許証非保有者で見ると、荷物を運ぶのが大変だからという回答の割合が最も高くなっています。

【全回答者】



【運転免許証非保有者】

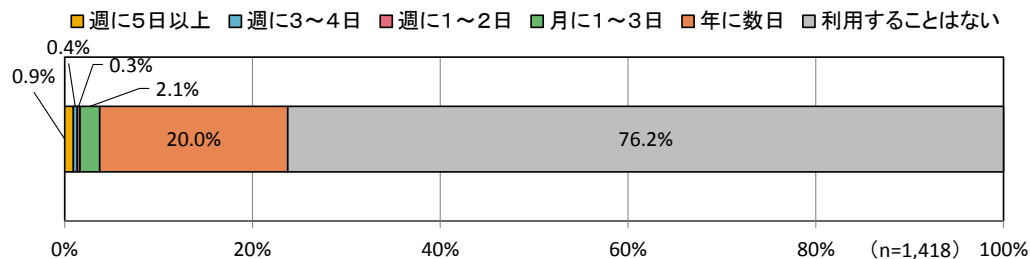


(4) 出雲市内の鉄道・バスの利用状況について

① あなたは、普段、JR 山陰本線と一畑電車をあわせてどれくらい利用していますか

- 鉄道を利用しない人が全回答者の 76.2% を占めており、運転免許証非保有者についても、同様の傾向を示しています。

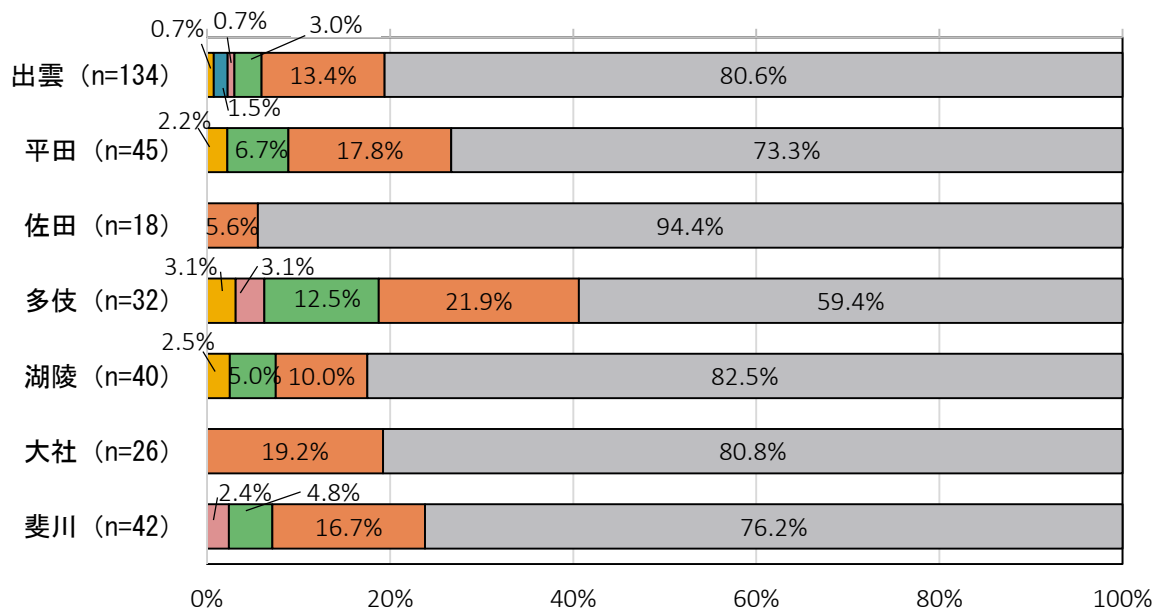
【全回答者】



【運転免許証非保有者・地域別】

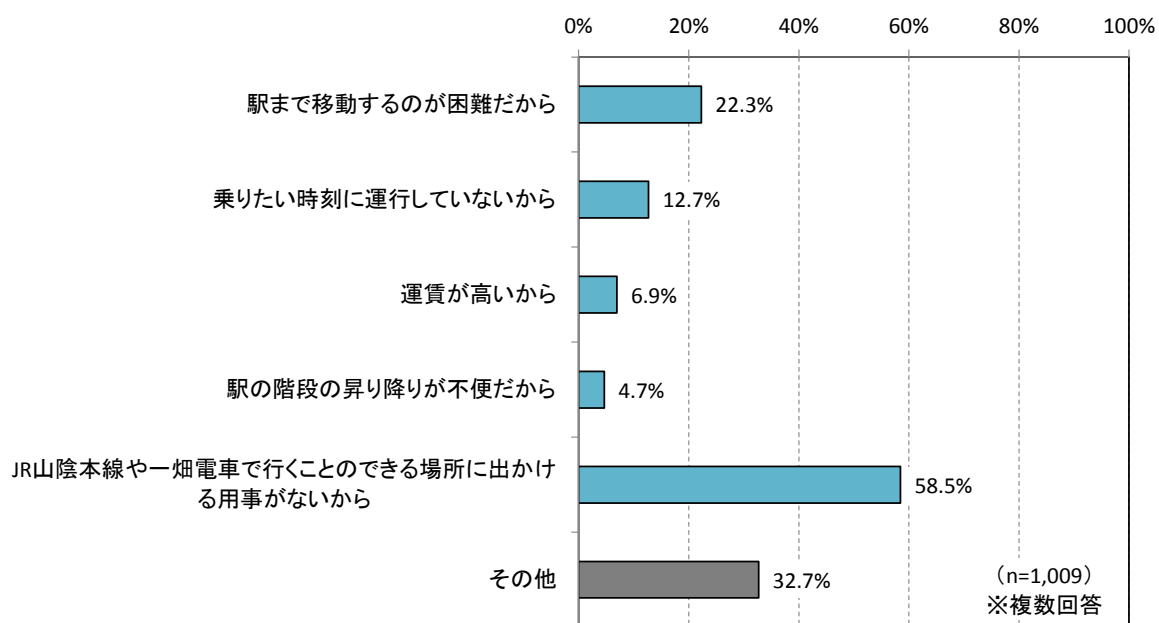
- 鉄道を利用しない人の割合は、地域内に鉄道がない佐田地域が最も高くなっています。
- 多伎地域は月に1~3回または年に数日利用する人の割合が他地域よりも高くなっています。

■ 週に5日以上 ■ 週に3~4日 ■ 週に1~2日 ■ 月に1~3日 ■ 年に数日 ■ 利用することはない



② JR 山陰本線や一畑電車を利用しない理由は何ですか。(①「利用することはない」選択者のみ回答)

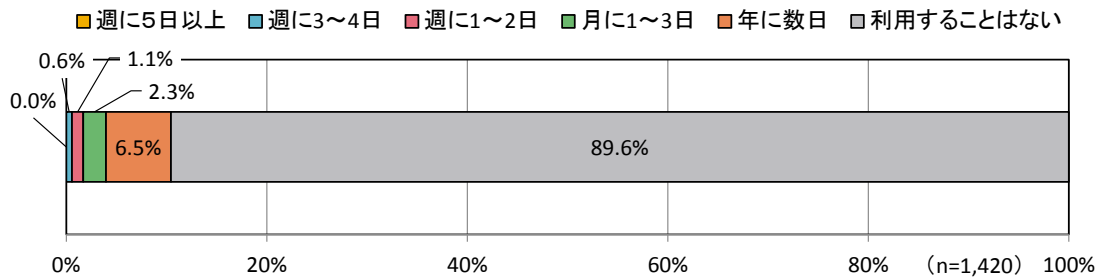
- JR 山陰本線や一畑電車で行くことができる場所に出かける用事がないからと回答した人の割合が最も高い状態です。



③ あなたは、普段、出雲市内を走っているバスをどれくらい利用していますか。

【全回答者】

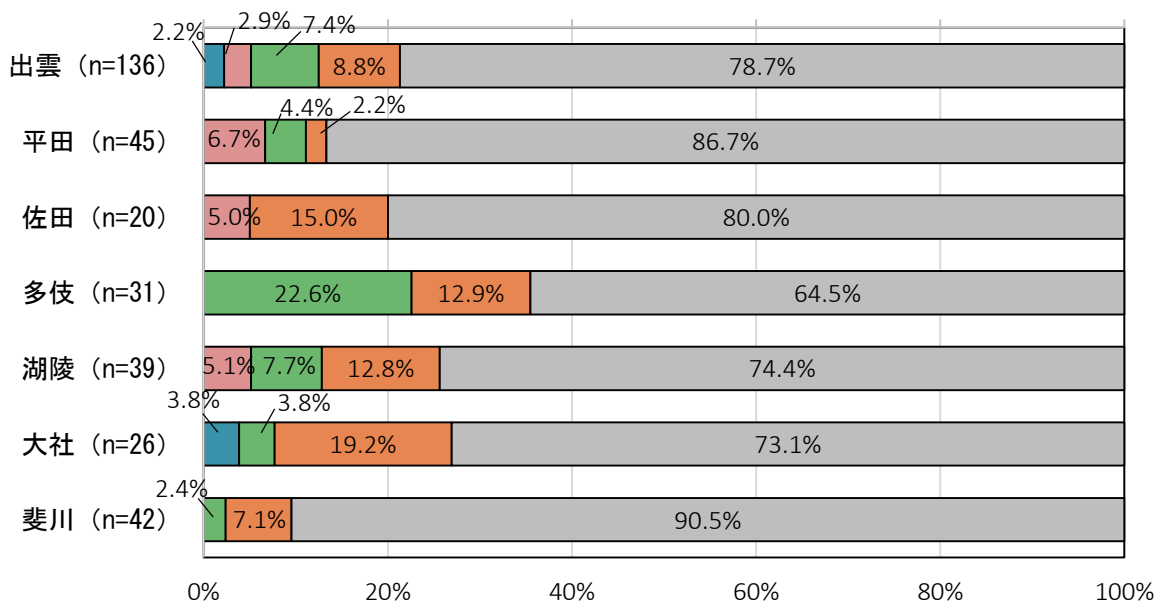
- バスを利用しない人が全回答者の 86.9%を占めている一方、運転免許証非保有者ではその割合が 10.5 ポイント低く、79.1%となっています。



【運転免許証非保有者・地域別】

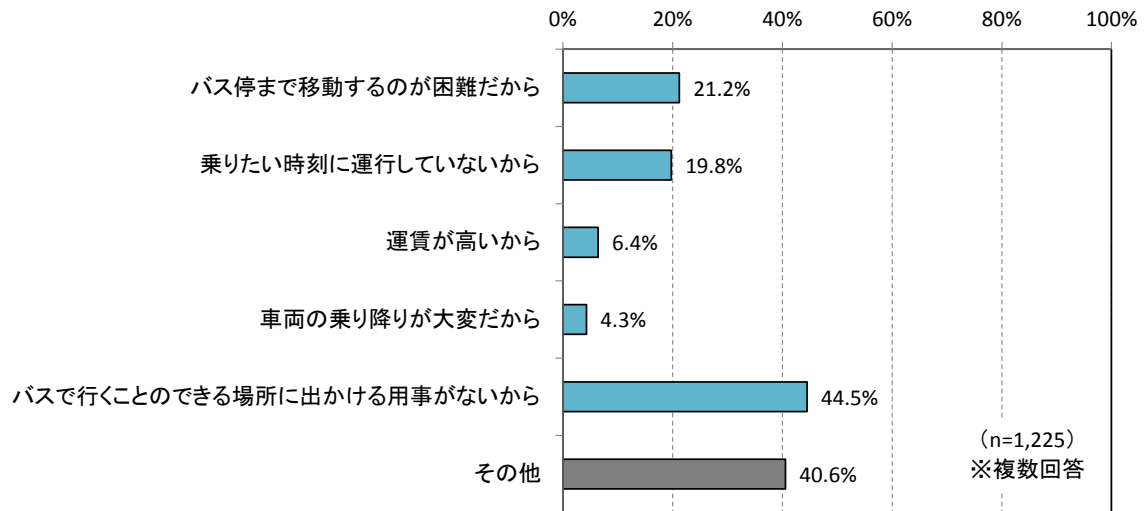
- 斐川地域における利用しない人の割合が高く、90%を超えています。

■ 週に5日以上 ■ 週に3~4日 ■ 週に1~2日 ■ 月に1~3日 ■ 年に数日 ■ 利用することはない



④ 出雲市内を走っているバスを利用しない理由は何ですか。(③「利用することはない」選択者のみ回答)

- バスで行くことのできる場所に出かける用事がないからと回答した人の割合が最も高い状況です。



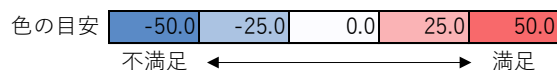
(5) 出雲市内のバスの満足度や改善点について

- 「次の便までの待ち時間」は、全ての地域において満足度が低くなっています。
- 斐川地域は、満足度が全体的に低くなっています。

<以下の表について>

- 表示されている n 値は、総合的な満足度のもの。
- 「満足」「どちらかといえば満足」の割合から「どちらかといえば不満」「不満」の割合を引いて満足度を点数化した。
- 「満足」「どちらかといえば満足」の割合の方が高い場合はプラスの値（赤色）となり、逆の場合はマイナスの値（青色）となる。
- 色の濃さは、それぞれの傾向の強さを示す。

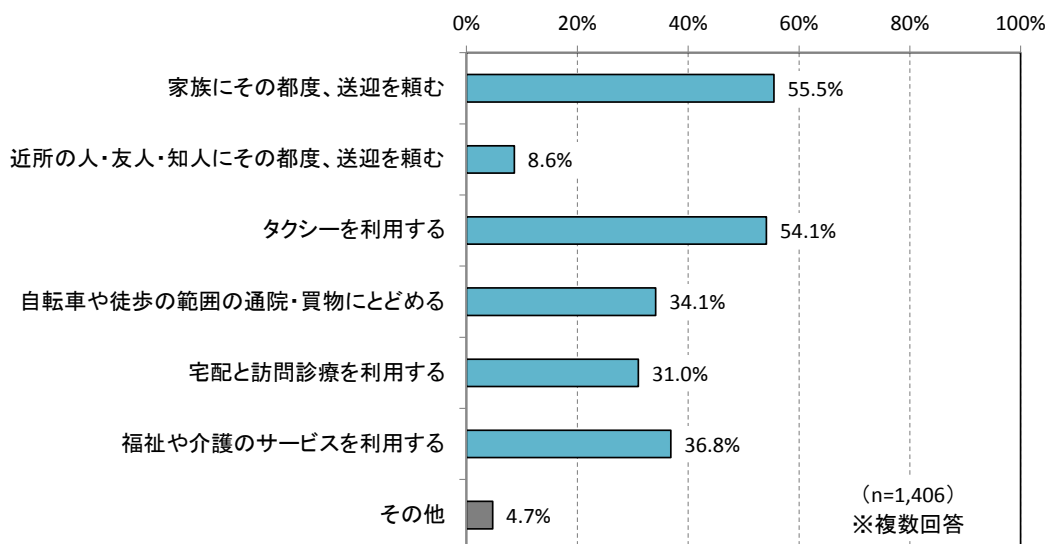
	市全体 (n=1,060)	出雲 (n=412)	平田 (n=143)	佐田 (n=91)	多伎 (n=101)	湖陵 (n=83)	大社 (n=85)	斐川 (n=142)
総合的な満足度	-8.7	-1.5	0.7	-10.0	-6.9	-26.5	-2.4	-32.4
乗降場所（駅・バス停）までの距離	3.8	16.2	11.6	-5.3	29.7	-19.1	7.9	-40.3
次の便までの待ち時間	-40.1	-33.7	-41.7	-44.4	-45.5	-62.1	-38.8	-37.8
時刻どおりの運行	26.5	28.3	31.9	28.7	33.0	19.5	38.8	3.1
運行している時間帯	-9.7	-2.2	-8.4	-25.6	-17.8	-36.1	6.0	-13.0
乗車している時間	17.1	27.4	14.5	2.3	20.8	10.3	25.6	-7.1
運賃・料金	4.3	10.7	23.2	-18.4	18.2	-6.3	-14.6	-14.6
他の移動手段との乗り換え	-12.1	-6.4	-6.6	-17.2	-25.5	-23.8	-4.9	-20.3
車両の乗り降りのしやすさ	20.5	25.4	20.4	23.0	27.8	21.5	19.5	-3.1
乗降場所周辺の駐車場や駐輪場の整備状況	-0.3	2.5	11.0	-1.1	12.1	-9.6	-8.5	-19.1
車内の混雑度	27.5	31.1	34.3	25.6	43.4	13.0	23.5	7.1
利用方法のわかりやすさ	9.3	9.2	19.0	16.1	22.4	1.3	8.5	-10.9
災害等による急な運休など、緊急時の周知方法	0.5	-5.3	16.8	18.7	10.2	-13.8	9.9	-16.3
時刻や路線情報の取得のしやすさ	-7.3	-7.0	9.7	-7.9	1.0	-25.9	6.2	-28.2



(6) 日常生活における移動手段に関する将来の不安などについて

① 将来（5年から10年くらい先まで）、自動車が運転できなくなったときに鉄道やバスが廃止されていた場合、あなたは、通院や日常生活の買い物のために、どのような手段を利用すると思いますか。

- 半数以上が「家族にその都度、送迎を頼む」または「タクシーを利用する」と回答しており、「自転車や徒歩の範囲の通院・買物にとどめる」や「宅配と訪問診療を利用する」よりも割合が高くなっています。

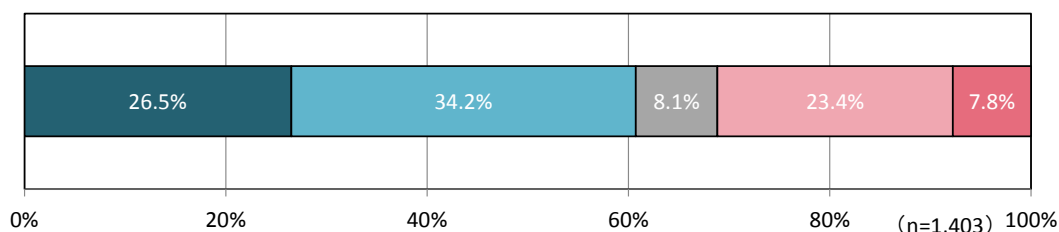


② あなたは、日常生活における将来（5年から10年くらい先まで）の移動手段について、不安を感じていますか。

- 全回答者で見ると、60.7%の人が将来の移動手段について不安を感じています。
- 70歳以上の運転免許証保有者では、その割合が72.2%となっています。

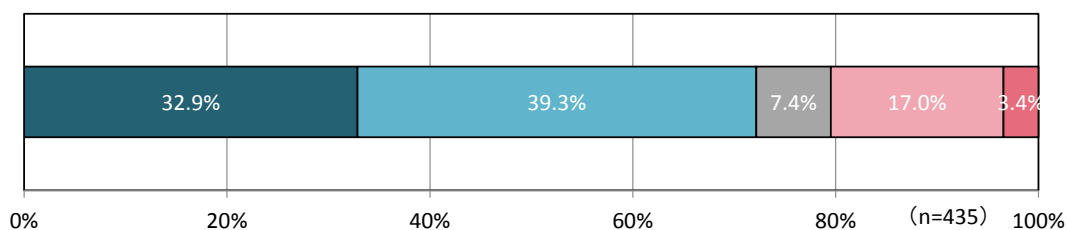
【全回答者】

■ とても不安である ■ 少し不安である ■ どちらでもない ■ あまり不安はない ■ 不安は全くない



【70歳以上の運転免許証保有者】

■ とても不安である ■ 少し不安である ■ どちらでもない ■ あまり不安はない ■ 不安は全くない

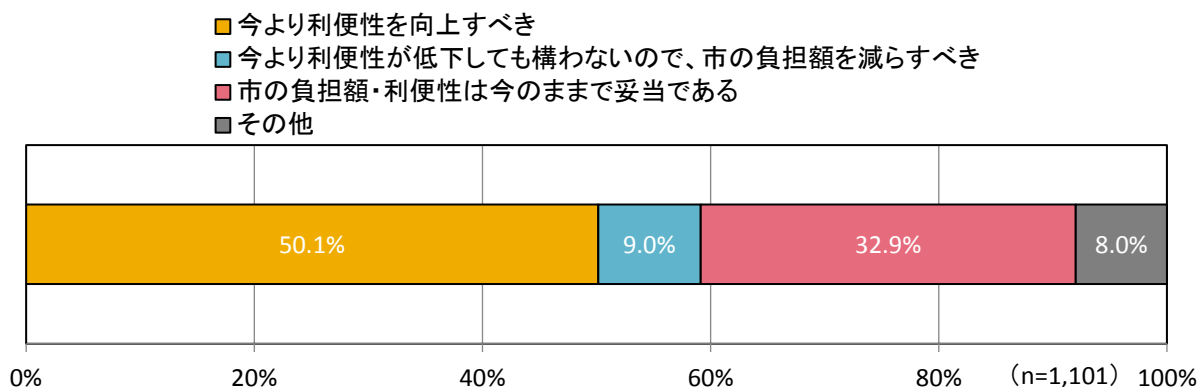


(7) 出雲市内の公共交通の維持・確保について

- ① 公共交通を維持・確保するための市の負担額と、運行方法・便数・運行時刻等の公共交通の利便性について、あなたはどのように考えますか。

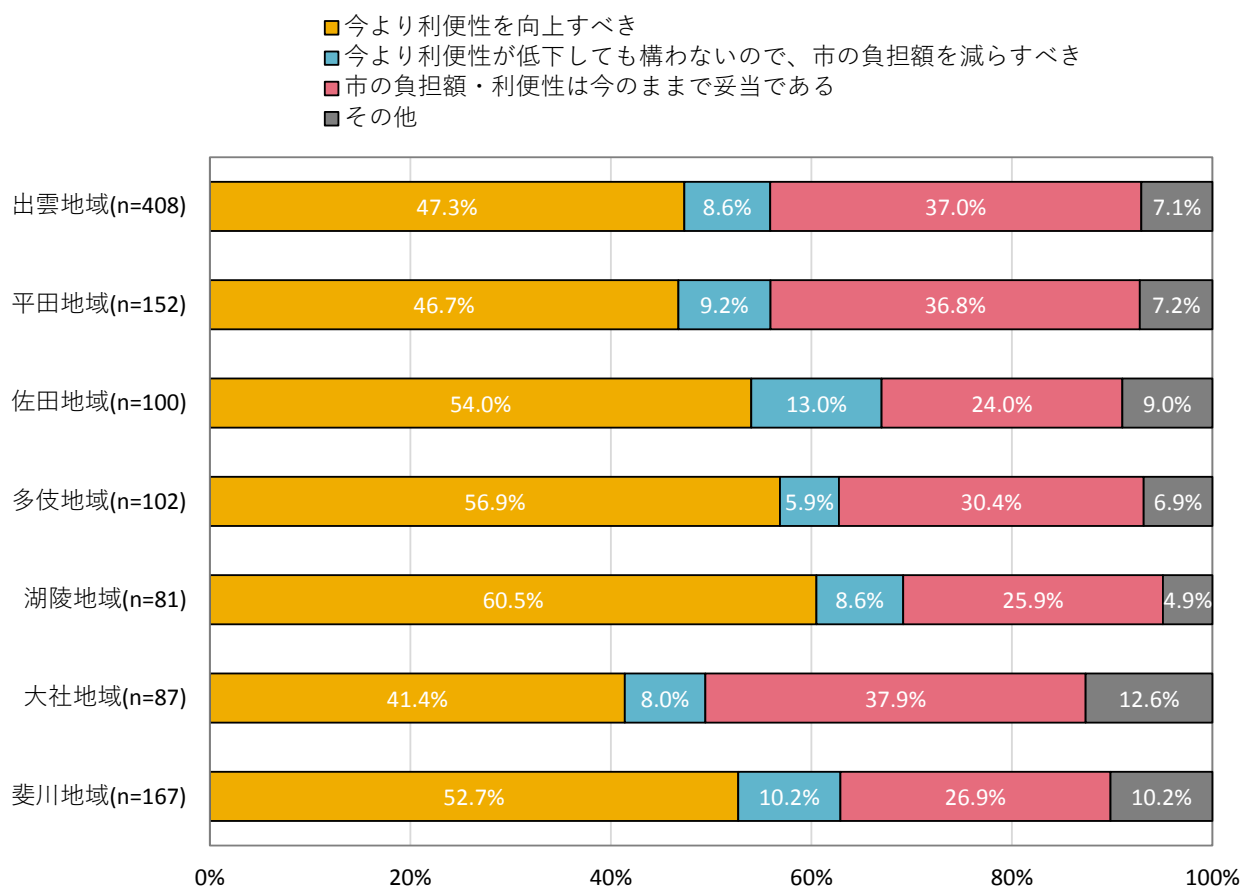
【全回答者】

- 約半数が、公共交通サービスについて「今より利便性を向上すべき」と回答しています。



【地域別】

- 全回答者の結果と比較すると、佐田・多伎・湖陵・斐川地域で利便性を向上すべきと回答した人の割合が高くなっています。
- 大社地域は、利便性を向上すべきと回答した人の割合が他の地域と比べて低い状況です。

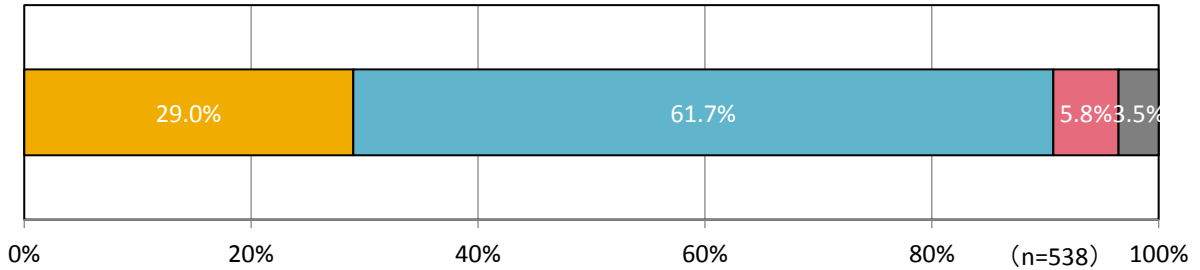


② 今より利便性を向上させるために必要な費用の負担について、あなたはどのように考えますか。(①「今より利便性を向上すべき」選択者のみ回答)

【全回答者】

- 「基本的には市が負担するが、利用者の負担も現状より増やすべき」と回答した人が 61.7% を占めています。

- すべて、市が負担すべき
- 基本的には市が負担するが、利用者(受益者)の負担も現状より増やすべき
- 市は負担せず、利用者(受益者)の負担で賄える範囲で利便性を向上すべき
- その他



【利用状況別】

- 公共交通の利用者についても、全回答者と同じく「基本的には市が負担するが、利用者の負担も現状より増やすべき」と回答した人が 60%を超えています。

- すべて、市が負担すべき
- 基本的には市が負担するが、利用者(受益者)の負担も現状より増やすべき
- 市は負担せず、利用者(受益者)の負担で賄える範囲で利便性を向上すべき
- その他

